

第28期中間期の業績の概況



株式会社 秋川牧園

営業の概況

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第28期上半期（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）の営業の概況につきましてご報告申し上げますので、よろしくご高覧賜りますようお願い申し上げます。

当中間期の当社グループの業績の概況

当中間連結会計年度において、当社グループは、顧客志向の徹底を進め、食の信頼や品質面のさらなる強化、顧客により密着した商品の開発と提案に積極的に取り組みました。

一方、鶏肉事業におきましては、価格競争の激化が進んでおり、さらには余剰部位の在庫の評価減及び売却を行ったこともあり、収益環境は一層厳しい形となりました。また、鶏卵事業につきましては、健康鶏卵としての販売が前年と比べて若干減少したため、鶏卵の需給調整コストが膨らみました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は19億4百万円と前年同期比で2.2%増加しましたが、経常損失は74百万円（前年同期は25百万円の利益）となりました。

さらに、減損損失の計上と繰延税金資産の取り崩しという、特別な要因により、中間純損失は286百万円（前年同期は2百万円の利益）となりました。

その内容は、養鶏の直営生産農場において、鶏卵から若鶏へと生産品目をシフトしたことに伴い、使用価値が低減した鶏糞処理設備等で減損損失を51百万計上、上半期の業績を勘案し、繰延税金資産について、いったん全額を取り消し、単体で法人税等調整額を140百万計上、といったものであります。

ただし、この減損損失と法人税等調整額の計上は、キャッシュ・フローには影響はなく、より厳正な会計基準を適用したものであります。また、減損損失は今後の減価償却費を軽減する効果があり、繰延税金資産の取り崩しは今後業績回復により再度資産に計上する場合には、利益要因となるものであります。

強いコスト競争力の確立へ～コスト構造改革がスタート

当社グループでは、かねてから検討を進めてきた、より強いコスト競争力の確立を目的とした「コスト構造改革」について、工程表を取りまとめ、既に集中的な取り組みをスタートしています。

この改革は、製造部門における生産効率の大幅改善、組織や業務の抜本的な見直しによる間接部門の人件費の削減、徹底した経費の削減、鶏卵部門における需給バランスの正常化、鶏肉の販売の部位バランスの改善、宅配事業における売上アップとコスト削減アクション等を、平成 20 年 3 月末までを重点的な改革期間として進めるものであります。

この取り組みによって、来期（平成 20 年 3 月期）において、170 百万円もの収支改善効果を達成する見込みであり、既に鶏肉パック工場における大幅な効率改善など、大きな成果が実現し始めております。

当社は、おかげさまで食の安心・安全や品質の面では高いご評価を確立しておりますが、一方で、コストダウン努力によりコスト競争力と高い収益性を確保することについては、その余地を多く残してきたことも事実であります。

今回の「コスト構造改革」は、短期的な収支改善効果にとどまるものではなく、今までの当社グループのウイークポイントともいえる課題を克服し、今後の成長力にも大きくつながるものと期待しております。

当社グループの業績予想

当社の売上は鶏肉等の需要が秋から冬にかけて多くなるため、中間期は利益が少なく、その大半が下半期に発生するという特徴があります。

ただし、通期におきましても固定資産の減損損失、繰延税金資産の取り崩し等の上期の業績の影響が残るため、連結の通期業績につきましては、売上高 38 億 68 百万円（前連結会計年度比 0.6% 増）、経常損失 64 百万円（前連結会計年度は 49 百万円の経常利益）、当期純損失 279 百万円（前連結会計年度は繰延税金資産の取り崩しという特殊要因があり 7 百万円の損失）となる見込みであります。

なお、来期（平成 20 年 3 月期）につきましては、上記のコスト構造改革の成果等により、安定的な黒字額を確保する見込みであります。

LOHAS や食育など新しいトレンドも取り込み、 当社の新たな成長期を創出します

今から 34 年前、当社が先駆的に取り組んだ食の安心・安全は、今や時代の大きな核となり、ほとんどの消費者が認める共通の価値観となってきました。

一方近年では、LOHAS、スローフード、食育、地産地消、生活習慣病予防など、新しい文脈と価値観で、食を考えるトレンドが育ちつつあります。

さらには、後継者問題や国際競争力の低さなどの問題をかかえる日本の農業について、逆に今後の有望なビジネスととらえるトレンドが生まれています。

そこで、当社としましては、食の安心・安全や信頼性をさらに強化すると同時に、これらの新たな分野においてもイニシアティブをとって事業展開を進め、秋川牧園ブランドの確立と当社の新たな成長期に向けて、積極的にチャレンジして参る所存であります。

当社グループの堅実な財務体質 / 期末配当について

当中間連結会計期間における当社グループの自己資本比率は35%であり、今後も堅実な財務体質の確保に努めます。

また、当社は株主の皆様への積極的な利益還元を重視して参りましたが、当期末の配当については、無配とせざるを得ないものと判断しております。

今後につきましては、現在既にスタートしている「コスト構造改革」や宅配事業など新規分野の育成の成果等により、安定的な利益を確保し、早期の復配を実現し、株主に対する積極的な利益還元に努める所存であります。

何卒今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成 18 年 12 月



代表取締役社長 秋川 正

当社の株式

当社が発行する株式の総数	8,000,000 株
発行済株式の総数	4,179,000 株
株主数	720 名
1単元の株式数	1,000 株
大株主	

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
秋川正	1,133,500	27.1
秋川實	427,000	10.2

株価の推移

当中間会計期間における月別最高・最低株価

月別	平成18年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	935	870	895	889	860	840
最低(円)	865	830	800	810	810	816

中間連結貸借対照表

(平成 18年 9月 30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
【流動資産】	【1,634,636】	【流動負債】	【2,062,447】
現金及び預金	646,288	支払手形及び買掛金	272,554
受取手形及び売掛金	430,237	短期借入金	1,350,000
有価証券	10,306	未払法人税等	6,094
たな卸資産	334,678	賞与引当金	27,730
繰延税金資産	12,089	その他	406,067
未収入金	165,443		
その他	37,324	【固定負債】	【348,671】
貸倒引当金	1,732	長期借入金	177,815
【固定資産】	【2,075,692】	退職給付引当金	128,448
(有形固定資産)	(1,605,329)	その他	42,407
建物及び構築物	707,475	負債合計	2,411,118
機械装置及び運搬具	170,353		
土地	669,210	(純資産の部)	
建設仮勘定	9,997	【株主資本】	【1,277,468】
その他	48,292	資本金	714,150
(無形固定資産)	(111,031)	資本剰余金	681,030
のれん	105,578	利益剰余金	115,185
その他	5,452	自己株式	2,525
(投資その他の資産)	(359,331)	【評価・換算差額金】	【17,986】
投資有価証券	58,130	その他有価証券評価差額金	17,986
長期貸付金	257,482	【少数株主持分】	【3,972】
繰延税金資産	8,788	純資産合計	1,299,427
その他	35,446		
貸倒引当金	517		
【繰延資産】	【217】		
社債発行費	217		
資産合計	3,710,546	負債・純資産合計	3,710,546

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

中間連結損益計算書

〔平成 18年 4月 1日から
平成 18年 9月 30日まで〕

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	1,904,776
売上原価	1,495,116
売上総利益	409,659
販売費及び一般管理費	484,058
営業損失	74,398
営業外収益	11,835
受取利息	2,594
その他の	9,240
営業外費用	12,369
支払利息	11,266
その他の	1,102
経常損失	74,931
特別利益	247
貸倒引当金戻入益	173
固定資産売却益	74
特別損失	59,085
固定資産除却損失	690
減損損失	51,845
その他の	6,549
税金等調整前中間純損失	133,769
法人税、住民税及び事業税	2,871
法人税等調整額	150,734
少数株主損失	795
中間純損失	286,580

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

中間連結株主資本等変動計算書

〔平成 18年 4月 1日から
平成 18年 9月 30日まで〕

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年3月31日残高	714,150	681,030	234,044	1,841	1,627,382
中間会計期間中の変動額					
剰余金の配当			62,649		62,649
中間純損失			286,580		286,580
自己株式の取得				683	683
株主資本以外の項目の中間会計期間の変動額(純額)					
中間連結会計期間中の変動額合計			349,230	683	349,913
平成18年9月30日残高	714,150	681,030	115,185	2,525	1,277,468

	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株主持分	純資産合計
	平成18年3月31日残高		
中間会計期間中の変動額			
剰余金の配当			62,649
中間純損失			286,580
自己株式の取得			683
株主資本以外の項目の中間会計期間の変動額(純額)	3,266	795	4,061
中間連結会計期間中の変動額合計	3,266	795	353,975
平成18年9月30日残高	17,986	3,972	1,299,427

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

中 間 貸 借 対 照 表

(平成 18年 9月 30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
【流動資産】	【1,667,812】	【流動負債】	【2,155,589】
現金及び預金	508,121	買掛金	417,538
受取手形	3,147	短期借入金	1,350,000
売掛金	429,569	未払法人税等	5,039
有価証券	10,306	賞与引当金	23,169
棚卸資産	326,563	その他	359,841
未収入金	289,898	【固定負債】	【258,962】
その他	101,960	長期借入金	89,000
貸倒引当金	1,753	退職給付引当金	128,044
【固定資産】	【2,090,980】	その他	41,917
(有形固定資産)	(1,262,036)	負債合計	2,414,551
建物	520,728	(純資産の部)	
土地	510,909	【株主資本】	【1,326,427】
その他	230,398	資本金	714,150
(無形固定資産)	(5,127)	資本剰余金	681,030
(投資その他の資産)	(823,816)	利益剰余金	66,181
長期貸付金	636,797	自己株式	2,525
その他	187,575	【評価・換算差額金】	【17,986】
貸倒引当金	557	その他有価証券評価差額金	17,986
【繰延資産】	【217】	純資産合計	1,344,459
社債発行費	217		
資産合計	3,759,010	負債・純資産合計	3,759,010

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

中 間 損 益 計 算 書

〔平成 18年 4月 1日から
平成 18年 9月 30日まで〕

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上 高	1,853,484
売 上 原 価	1,495,723
売 上 総 利 益	357,760
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	447,448
営 業 損 失	89,688
営 業 外 収 益	8,762
受 取 利 息	6,426
受 取 配 当 金	151
そ の 他	2,184
営 業 外 費 用	11,935
支 払 利 息	10,848
社 債 利 息 費	300
社 債 発 行 費	217
そ の 他	567
経 常 損 失	92,861
特 別 利 益	115
特 別 損 失	58,722
固 定 資 産 除 却 損 失	328
減 損 損 失	51,845
そ の 他	6,549
税 引 前 中 間 純 損 失	151,468
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,809
法 人 税 等 調 整 額	140,908
中 間 純 損 失	294,186

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

中間株主資本等変動計算書

〔平成 18年 4月 1日から
平成 18年 9月 30日まで〕

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年3月31日残高	714,150	681,030	290,654	1,841	1,683,992
中間会計期間中の変動額					
剰余金の配当			62,649		62,649
中間純損失			294,186		294,186
自己株式の取得				683	683
株主資本以外の項目の中間会計期間の変動額(純額)					
中間連結会計期間中の変動額合計			356,836	683	537,520
平成18年9月30日残高	714,150	681,030	66,181	2,525	1,326,472

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	
平成18年3月31日残高	21,252	1,705,245
中間会計期間中の変動額		
剰余金の配当		62,649
中間純損失		294,186
自己株式の取得		683
株主資本以外の項目の中間会計期間の変動額(純額)	3,266	3,266
中間連結会計期間中の変動額合計	3,266	360,786
平成18年9月30日残高	17,986	1,344,459

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

以上